



村で作った井戸と水汲み中の子どもたち



The Republic of South Sudan

アシストアフリカ!

アフリカは今、世界でも最大規模の国内避難民と難民を抱える地域です。「アフリカ最大の難民危機」と指摘されるほどの事態にもかかわらず、その実情が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られています。日本から約1万km離れた大陸で、何が起きているのか。タウトク編集部では、南スーダン、ケニア、ウガンダで活動するNGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動が続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、アフリカが抱える問題を少しずつつむぎもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円をアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろいろな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみ! <http://peace-winds.org/>

タウトクでは毎月、アフリカの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額＝タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク9月号の販売部数

●部×3円＝●円

を支援金としてPWJを通じアフリカの国内避難民・難民支援事業に送りました。



月刊タウン情報クシマ

タウトク

medicomm inc
株式会社メディコム
月刊タウン情報クシマ編集部

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

誇れる祖国を願い、あきらめない人々を手助けしたい ～南スーダン・ジョングレイ州ポー～

南スーダンからこんにちは。ケニア出身のジェームズ・オティエノ・オウマです。南スーダン事業でプロジェクト・オフィサーとして働いています。困っている人々を助けたいという情熱が不安や困難に打ち勝つことを信じて仕事に取り組んでいます。

ピースウィンズ・ジャパン(以下、PWJ)は首都ジュバがあるジュベック州以外では、東部にあるジョングレイ州で給水・衛生、保健事業を行っています。その州都ポーと同地での活動を皆さんにご紹介したいと思います。

ポーはジュバからは200キロほど離れたところにあり白ナイル川に面しています。世界で最も身長ともいわれるディンカ民族が多く住んでおり、第二次スーダン内戦時には紛争の中心地でした。元副大統領のジョン・ガランの出身地であり、現在はジョン・ガラン記念大学が創設されています。街中には、教会、学校、銀行そして病院があり、多くの人々は牧畜と農業で生計をたてています。

私が駐在する首都ジュバからポーへの出張経路は空路、ナイル川を使った水路、陸路があります。水路は時間がかかり、陸路は治安的に危険なため、空路を利用します。国連が運航する12人乗り小型飛行機の搭乗時間は25分、貨物用ヘリコプターは45分です。小型飛行機は揺れが激しく、ヘリコプターはプロペラ音がひどいため



川に面するポーでは魚料理が名物(奥:ジェームズ)

多くの人はどこでも着陸可能で安全と思われるヘリコプターを好みます。ケニアの湖周辺地域出身の私は、川に面し、魚がたくさん取れるポーで食べるティラピアのフライが出張の際に食べられるのを楽しみにしています。

PWJはポーの中心地から38キロ離れた西ポー郡にあるバイディットという地域で活動しています。悪路のため乾季には車で1時間半ほどかかり、雨季には通行が

ほぼ不可能になります。5月の出張時には、私たちの乗っていた車はポーからバイディットに着くまでに4回も立ち往生しました。



バイディット地区は6つの 悪路にはまったプロジェクト車村で構成され、55,000人が住んでいます。私たちはそこで、給水・衛生そして保健支援を行っています。井戸を掘削し(機械で掘り)、手押しポンプ式井戸を修繕し、衛生啓発活動を行い、バイディット保健センターで、薬や医療に必要な物資の提供、病院等の修理や病院で働く医療職員支援を行っています。バイディットは2013年の紛争で深刻な被害を受け、多くの人が近隣国へ避難しました。その後、人々は帰還しつつありますが、破壊



修繕したバイディット保健センター

されてしまった基礎インフラ、安全な水、基礎保健サービスの提供が課題であり、それに対して多くの人道支援組織が活動しています。

過去2年間にPWJは同地で8本の井戸を掘削し、15本の井戸の手押しポンプを修理しました。また7,000家族に対して衛生意識の向上、行動変容のための活動を行い、年間15,000人が基礎保健サービスを受けることができました。

バイディットの人々は苦しい時に手を差し伸べてくれた日本の人々と日本からの支援に感謝しています。人々はいつか南スーダンが生まれ変わり、紛争、貧困、不正義がなくなり、人権を尊重し、全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、必要な時に支払い可能な費用で受けられる状態になり、教育を受けられ、国家として他国からも認められるような国になることを願っています。どれだけ時間がかかっても、あきらめないでろう南スーダンを私たちはこれからも支援していきます。

南スーダン事業現地駐在員 ジェームズ・オティエノ・オウマ